

健 心

題字：山田無涯 書

平成22年1月4日発行

発行所

高岡市石瀬6-1 塩谷建設社内

高岡市柔道連盟

TEL 23-4658

FAX 28-2755

編集発行

広報部



ロシアナホトカ交流



試合



練習



整列

「ロシアとの柔道交流について」

連盟少年強化部長 関岡邦夫

富山ロシア協会からの依頼により、ナホトカ柔道連盟の総勢二十五名が来県され、一回目は三月十一日、十二日 中学生、高校生が中心、二回目は十一月三日、四日 中学生、小学生中心で交流大会が行われた。

この話を聞いた時は、講道館柔道ルールはわかって頂けるのだろうか？どれくらいの実力なのだろうか？と不安でいっぱい、事細かにロシア側と連絡を取り合った。

交流試合は最初にプレゼント交換を行い、握手のあと試合を行った。試合は白熱し、ロシア側の高校生の関節技にはさすがに上手さを感じた。

試合終了後、我々はロシア船ルーシー号に招待を受け、美味しいロシア料理に舌鼓を打った。子供たちは言葉がそれぞれ通じない中、身振り手振りでも楽しく談笑しながら船内などを案内してもらい、楽しい時間を過ごし、良い思い出ができたのではないかと思う。

改めて今回のような国際交流会を設けて頂いた富山ロシア協会の皆様に感謝します。また快く参加して下さった市内の高校生、中学生、スポーツ少年団の関係者にとっても貴重な体験ができたのではないだろうか。また、ロシア側から「ロシアに来てください」と、お誘いを頂き機会があれば是非行ってみたいと思う今日この頃である。

「全国大会報告」

芳野中学校柔道部顧問
近藤 容子

新型インフルエンザの影響が心配されるなか開催された第四十回全国中学校柔道大会神奈川大会。団体戦、個人戦合わせて十四名が出場しました。生徒たちはそれぞれ一〇〇%、自分の力を出し切った戦いで、その結果、男女個人戦の二階級で優勝したのをはじめ、他の階級や団体戦でも多くの生徒が上位入賞を果たすことができました。これらは、地道に練習を積み重ねてきた生徒たちのひたむきな努力に加え、これまで応援し支え続けて下さったすべての方々のおかげだと思えます。

縁があって中学校の柔道部顧問となり九年目を迎えました。この間、生徒一人一人が成長する瞬間に立ち会えることができましたことをありがたく思います。練習や試合では、たった一人で相手と向き合い、自分で考え行動しなければなりません。うまく技がかかった時、何かをつかんだような清々しい生徒の表情は輝いて見えます。しかし、なかなか思うように技がかからないことの方が多く、厳しい現実が突きつけられます。そこでは、自分自身と対峙すること、他の教えを受け入れようとする素直

な心と態度が求められます。この辛くもどかしい苦しみや痛みを多く体験し、逃げないで立ち向かっている生徒たちは、次第に自分に厳しく、人には優しい人間に成長しているように感じます。柔道は生き方を教えてくれていると思います。私はこれからも学び続け、自分を高めていきたいと思えます。

「全国制覇」



芳野中学校 三年
杉山 拓海

「勝ってしまった。僕は、優勝が決まった瞬間、うれしさより驚きの方が大きかったです。理由は、団体戦。僕は、キヤブテンとして、自分にとっても、不甲斐ない試合をしてしまったのだ。相手は年下。自分自身が情けなくて仕方なかった。宿舎に戻ってから、自分の部屋で「俺、弱いな、もう何もしたくない。試合なんか出たくない。負けるのが怖い。」と、頭の中で何回も何回もこの言葉を繰り返していた。自分がキヤブテンであるの暗い表情をしていた。皆の前ですつと

暗い表情をしていた。皆の前ですつと暗い表情をしていた。しかし、僕には、まだ個人戦があった。その時、僕は「このままで終わってしまってもいいの。自分に負けて代表になれなかった人たちの思いは...。」と考えた。「僕がここまで来ることができたのは、多くの人たちが、自分を応援してくれたからだ。」そう思うと、自分の心の中にチャンピオンになりたいという思いがあふれてきた。このようなことを考えているうちに、自分の気持ちが前向きになり、開き直ることができた。そして、迎えた個人戦。一番の難関である初戦を突破して、そのまます勢いに乗り、決勝まで勝ち進んだ。何故か体がよく動いた。チャンスは絶対獲るという気持ちで戦った結果、優勝することができた。気持ちの切り替えが大事なんだと思った。「もっと、もっと上を目指して、自分を高めていく。」これが、僕の決意だ。

「中学最後の大舞台」



芳野中学校 三年
長内 春月

私は、応援して下さった方々、両親、先生方のおかげで、全国大会という大舞台で優勝することができました。

今回の試合では、一本を取る柔道心にかけていました。最初の試合から、私は全力で技をかけていきました。どんどん体が動いて、決勝まで進むことができました。決勝戦の相手は、小学校五年生の時の全国大会チャンピオンでした。一度も試合をしたことがなかったので不安でしたが、それ以上にどのような戦いになるのか、楽しみでもありました。そして、相手と向かい合った時、不思議なことに、私はとても冷静でした。今まで自分を追い込んで追い込んで練習してきたことが、私を支えていたのだと思います。

最初は組み手負けをしていたので焦ったけれども、ポイントを先に一つ取ることができたことで、自分のベースにもっていくことができました。そして、合わせ技で一本勝ち。本場に嬉しかつたです。勝ったと同時に涙があふれ出ました。昨年は、負けて悔し涙を流しましたが、今年には嬉し涙を流すことができて、本当によかったです。いろいろな方々に感謝をして、これから今以上に練習をして、もっと強くなりたいです。今後の目標は、来年の大きな試合でも上位入賞し、三年後に富山県で開催されるインターハイで優勝することです。



富山県女子柔道の 今後の展望

理事 西川 貴志子



この計画を進めている頃、講道館で開催される女性柔道指導者セミナー(六月二日火曜日開催)に参加させていただく機会が訪れた。地域ごとに

平成二十一年四月初旬、高岡市柔道連盟から、「高岡市民体育大会に女子も参加するよう検討してみてもどうか」との提案を受け、高岡市民体育大会女子部の開催準備をすることとなった。何分、初めてのことでチームが集まるかも分からず不安なスタートとなった。最初は高岡市民という枠にこだわらず、卒業高校が高岡市内であれば良いこととし、各校OGを中心に声をかけてみたところ、四チーム(十六名)の参加希望があり、試合はリーグ戦で行うことになった。

分かれて行われた分科会での席上、現在の北信越各県の現状や今後の女子の活動予定等についてのディスカッションが行われた。その中で、高岡市民体育大会女子部の開催について、話をさせていたところ、福井県の横山悦子先生(柔形の形選手権世界一)から、「その高岡の大会の現状を一度見てみたい」というお話をいただいた。横山先生においていただけるのであれば、願ってもない機会なので、市民大会の試合前には是非あの形をご披露いただけないものかとお願いしたところ、当方の大変あつかましいお願いにもかかわらず、快くご承諾いただき、長野県の大森千草先生(柔形の形選手権世界一)と一緒に、市民大会当日、高岡においていただけることとなった。

富山に帰り、早速高岡市柔道連盟にそのことを報告したところ、大変喜んでいただき、減多にないチャンスなので、中・高校生も集めて形講習会を兼ねて実施させてもらったらどうかとの意見をいただき、横山、大森両先生にそのことをお願いし、形講習会が実現する運びとなった。

況振りであった。学生時代はライバル同士だった懐かしい顔ぶれが再会し、それぞれお互いのチームを応援しあつた。みんな真剣に試合に臨んでいるにもかかわらず、現役時代のようにうまく技に入ることができず、会場から温かい笑い声がでるなど終始和やかな雰囲気で大大会が進み、まるで同窓会のように楽しいひと時を過ごすことができた。

また、この活動の中、高校生に見てもらい、卒業してからも柔道を続けたいとお願いから、揭示・時計係を中心・高校生の女子柔道部員に呼びかけて担当してもらった。大会終了後、彼女たちの反応は大変よく、好評を得ることができた。

この提案を富山県柔道連盟にご理解いただき、会長からは具体的にどのように進めるか提案するようにとの指示を受けた。

大会終了後、「今回限りではなく、毎年継続して実施できるようにしたい」という意見が参加者から多く出され、女性活動の機運も大変盛り上がってきた。

一、県内女性会員を増やし会員を把握するため、女性組織を立ち上げ、直接県柔連への登録ができるようにする。

二、県民体育大会や段別大会に参加する機会を作り、大会の勝敗が昇降の点数に加味されるよう要望する。

三、女性組織の活動として、講習会や練習会(女性、初心者や子供等を対象とする)を企画し、県柔道連盟の活動として位置づける。また、その経費を県柔連の予算に反映させ継続的なものとする。

七月五日(日曜日)の市民体育大会当日は、各高校のOGや同級生たちが大勢詰めかけてくれ、参加者より応援のほうが多くなってしまう盛

況振りであった。学生時代はライバル同士だった懐かしい顔ぶれが再会し、それぞれお互いのチームを応援しあつた。みんな真剣に試合に臨んでいるにもかかわらず、現役時代のようにうまく技に入ることができず、会場から温かい笑い声

四、名簿の作成に際しては、各高校の卒業生名簿などから、各校OGに連絡が取れるよう、連絡先の情報提供に協力が得られるよう関係を通じて各校に支援を要請する。これらの提案を今後県連と協議し、その実現に向け努力していきたいと考えている。

北信越地区女性登録推進会議で島谷先生が話された通り、「無理だろうではなく、とにかくできることやらやってみよう」という気持ちで取り組んでいきたいと決意を新たにしているところである。



4月

「健心会開校式」



今年も子供から大人まで多くの参加者がありました。週二回みんなが汗をかいています。

7月

「市民体育大会」



老若男女が柔道を楽しみ、技を競い合いました。

「形の講習会」



形の世界チャンピオンベアラ熱心に指導していただきました。

「柔道教室開講」



多くの小学生が集まり、田辺先生に寝技の指導をしていただきました。

8月

「全国中学校大会」



初めて芳野中学が団体男女アベック出場を果たしました。

9月

「秋季錬成柔道大会」



低学年優勝

戸出ポーツ少年団

高学年優勝

西条ポーツ少年団

12月

「若獅子青少年柔道大会」



小学生優勝「さくら柔道塾」 中学生女子優勝「戸出中学」



中学生男子優勝「高岡西部中学」

編集後記

今年度版後の広報誌発刊にあたり各部長、理事の皆さんいろいろご協力ありがとうございました。市柔道のさらなる向上に皆様方のおかげで後益及必要とされますので、よろしくお願いたします。

広報誌編集長 柴田 成人

■高岡市柔道連盟の携帯サイト
<http://takajuren.jugem.jp>



■高岡市柔道連盟公式サイト
<http://高岡市柔道連盟.jp/>
または<http://judo.boy.jp/>

■専用アドレス
takajuren@judo55.com

